



♪ ベートーヴェン、ボンからウィーンへ

1792年晩秋、21歳のベートーヴェンは、ボンとケルンの貴族フェルディナント・フォン・ワルトシュタイン伯爵(1762～1823)の言葉に見送られる形で、勇躍、楽都ウィーンに赴く。

いま「ワルトシュタインってあの…」と心でつぶやいた方は、冒頭の同音反復からしてドラマ満載のピアノ・ソナタ第21番ハ長調作品53「ワルトシュタイン」をお弾きになったことがありますよね。特に弾いたことがなくても、もちろん構いません。

1804年夏にウィーンで完成したこの雄渾なピアノ・ソナタは作品53として出版された。少し前にパリの楽器メーカー、エラールから贈られた新しいピアノの機能と音色、幅広い音域もベートーヴェンの創作意欲を大いに刺激したことだろう。ちなみにその頃最終的な形になったピアノ協奏曲第3番ハ短調、それにピアノ・ソナタ第23番ハ短調作品57「熱情」には、19世紀初頭のウィーンで普及していた伝統的な鍵盤楽器には無い音が書かれている。

♪ ワルトシュタイン伯爵の言葉

ボンとケルンを拠点とした冒頭のワルトシュタイン伯爵に話題を戻す。

彼、実はウィーン生れのボヘミア系貴族である。この音楽好きの伯爵は（モーツァルトの人生とも関わった）「ドイツ騎士団」で頭角を現し、ケルン選帝侯から騎士号を授与されたのち、かの地とボンで政治と軍事の要職も任されるのだが、私たちににとっては、若き日のベートーヴェンに手を差し伸べた愛すべきパトロンの一ひとりとなる。

各国語に訳され、ベートーヴェンを愛する人々に感銘を与えるワルトシュタイン伯爵の美しいドイツ語、その要約を記す。

「親愛なるベートーヴェン！

あなたは、長年の願いを叶えるためにウィーンへ向かっている。

モーツァルトに(音楽を授けた)神は、いまなお弟子(モーツァルト)の死を悼み、涙にくれている。

神は、尽きることなく創造的なハイドンのもとに安息の地を見つけたが、仕事を見つけることは出来なかった。

神は、再び誰かと結びつきたいと願っている。

絶え間ない努力により、あなたはハイドンの手からモーツァルトの魂を受け取るのです。

あなたの親友ワルトシュタイン

1792年10月29日」

神に愛されし者アマデまたはアマデー(のちにアマデウス)をミドルネームに戴くモーツァルトは、その前年1791年12月5日に35歳で天に召されている。モーツァルトより24歳年上のハイドンは1792年夏、第1回！ロンドン滞在を終え、ウィーンに戻ったところだった。

♪ ピアノ三重奏曲

さて時代も次代も切り拓き、9曲の交響曲も5曲のピアノ協奏曲も1曲のヴァイオリン協奏曲も素晴らしい私たちのベートーヴェンだが、最初から規模の大きなオーケストラ曲で喝采を博したわけではない。最初から脳裏に壮大なオーケストラが響いてはいただろうけれど。

皆さま、ベートーヴェンの作品1をご存じだろうか。3曲のピアノ三重奏曲である。作品2は？3曲のピアノ・ソナタである。ウィーン古典派の時代、曲は3曲セットで書かれ、楽譜が刊行された。よりマニックに眺めれば、2曲、6曲、12曲セットもある。

作品1は、最初にかかれた曲でも最初に印刷された作品でもないのだが、作曲家や出版社の、行くぞ、売ろぞとの意志が働いた数字としてやはり見逃すことは出来ない。

20歳台前半のベートーヴェンはウィーンで鍵盤のヴィルトゥオーゾと評された。鮮やかな技、華やかな音楽性をあわせもつピアニストとして週末の貴族邸で活躍。自作を奏でるとともに、ベートーヴェンのライフワークとなる変奏、それに即興を披露したのだった。

1795年5月、ベートーヴェン(と出版社)は、後に作品1となる3曲のピアノ三重奏曲の楽譜が先行発売される旨を告知した。しかも(秋の一般発売よりも)お得な価格で、とある。早割、今ならお得。これ近現代の商法である。結果、すでにベートーヴェンの音楽に夢中になっていたウィーンの音楽貴族たちが、あたかも競うかの如く、楽譜を予約した。その当初総数は数十部とささやかだが、ハイドンゆかりのエステルハーヅ、シュヴァルツェンベルク、エルデーディ、後に交響曲第3番「英雄」の独占演奏権をもつロプコヴィツらが、それぞれ複数部、予約を入れているのだ。音楽をたしなむ貴族や裕福な市民は、ピアノを交えた室内楽、なかでもピアノ、ヴァイオリン、チェロによるトリオを愛したのだった。ピアノ連弾曲も人気があった。

♪ ピアノ協奏曲

いっぽう、1795年3月には、かつてモーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」などが初演された宮廷ブルク劇場を借りての公演も実現した。ここで弾いたのが現在のピアノ協奏曲第2番変ロ長調作品19と言われている。貴族邸での演奏も考慮されたこのコンチェルト、まったくの偶然だが、モーツァルト最後のピアノ協奏曲第27番変ロ長調K.595(1788～91)と、調性もオーケストラの控え目な楽器編成も同じである。なおベートーヴェンは最初期のピアノ協奏曲に思うところがあったのか、何度も書き直している。今の第2番と第1番ハ長調作品15は出版順だ。

ピアノ協奏曲話を続ければ、ソリストとしてのベートーヴェンには得意とする作品があった。モーツァルトのピアノ協奏曲第20番二短調K.466(1785)である。このコンチェルトのためにベートーヴェンは第1楽章と第3楽章のカデンツァを創り、今も多くのピアニストがこれを弾く。

♪ アレグロ・コン・ブリオ

卓越したピアニストだったベートーヴェンは、当然、自分のために協奏曲を書いたわけだが、イタリア語の速度・表情語からしてこの作曲家は、自らの趣味を強く打ち出す。

Alllegro con brio (アレグロ・コン・ブリオ)、生き活きと速く。ここぞという楽章に、この覇気あふれる言葉を書きこんだ。

交響曲第3番「英雄」の第1楽章、第2番の第1楽章主部、第5番通称「運命」の第1楽章、第7番の第4楽章を挙げるまでもない。交響曲第1番、第8番の各第1楽章にもアレグロ・コン・ブリオを添えた。

それだけではない。ピアノ協奏曲第1番、第2番、第3番の各第1楽章、さらにヴァイオリン・ソナタ第1番二長調作品12の1、弦楽四重奏曲第1番ハ長調作品18の1の第1楽章もアレグロ・コン・ブリオなのだ。第1番がそのジャンル初の作品とは限らないが、ベートーヴェンは1790年代中葉からベートーヴェンなのだ。コンチェルトの背景を成すオーケストラのパートに匠匠を凝らしたのもこの人である。ピアノ協奏曲第3番



公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団

会 長 郡 和子(仙台市長)	常任指揮者 高関 健	コンサートマスター 神谷 未穂
顧問 村井 嘉浩(宮城県知事)	指 揮 者 太田 弦	西本 幸弘
創立理事長 故 藤崎 三郎助(6代)	桂冠指揮者 パスカル・ヴェロ	ゲストコンサートマスター 小森谷 巧
	副指揮者 東尾 多聞	

♪「皇帝」初演

今日は、思わずほほ緩む「皇帝」である。カイザー(ドイツ語)ではなく、エンペラー。愛称の由来や曲の美質については、素敵なプログラムノートにお任せしよう。曲は 1809 年頃に完成。1810 年晩秋に初版の楽譜が刊行、年明け 1811 年 1 月にロプコヴィツ侯爵邸でルドルフ大公(1788 ~ 1831)のソロにより私的に初演された。

そして同年 11 月下旬、ライプツィヒの歴史的なピアニスト、オルガニストで、作曲と指揮もよくしたというフリードリヒ・シュナイダー(1786 ~ 1853)のソロにより、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス会館で公開初演された。ゲヴァントハウス管弦楽団 1811 年 / 1812 年シーズン第 7 回定期公演のメインのひとつ。この日はハイドンの交響曲(特定出来ず)、ベートーヴェンの新作協奏曲、独伊のオペラ音楽たくさん、で構成されていた。プログラムの最後はなんとモーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」第 4 幕からである。今見ると多岐に渡り過ぎているが、19 世紀前半のオーケストラ公演ではこの雑多感が普通だった。

♪ 続「皇帝」初演

ライプツィヒでの公開初演の翌年、「皇帝」はウィーンで披露される。弾いたのは、ピアノを習った人がみんな大好きかどうかは分からないが、日本では教則本で名高いカール・チェルニー(1791 ~ 1857)だ。モーツァルトが亡くなった年にウィーンに生まれたチェルニーは、ベートーヴェンの奏法を目の当たりにし、それを後世に伝えただけでも素晴らしいが、ピアノ協奏曲、宗教曲、管弦楽曲に復活させたい曲がいくつかある。1827 年頃にモーツァルトのレクイエムのピアノ編曲版を創ったのもチェルニーで、さらに言えば、ウィーン楽友協会資料室をあらゆる面で支えた芸術のパトロンでもある。

ややあって 1829 年 6 月、「皇帝」は二十歳の心あるピアニストによってロンドンに鳴り響く。弾いたのは誰あろうメンデルスゾーン(1809 ~ 1847)である。賞賛を博し、気分をよくしたメンデルスゾーンは、かねてから訪れたいと思っていたスコットランド地方に足を伸ばす。序曲「フィンガルの洞窟」と交響曲第 3 番「スコットランド」を聴きたくってくる。

♪「英雄」

五線譜に ♭ 記号 3 つの変ホ長調を基調とする交響曲第 3 番「英雄」でしばしば話題になるのは、エロイカ英雄とは誰なのか、そしてなぜ葬送行進曲が入っているのか、である。

前者に関しては分かっていない。他人清書の浄書譜の表紙に記された“ボナパルテに捧ぐ”の部分がペンで烈しく消され、穴があいてしまったスコアは、さて何を物語っているのか…。ボナパルテはナポレオンのファーストネームだ。ウィーンには「英雄は 1806 年に戦死したプロイセン王子ルイ・フェルディナント」と大胆な説を掲げる学者もいる。ルイ・フェルディナント王子は、ベートーヴェンからピアノ協奏曲第 3 番を献呈されたピアニストでもあった。

ハ短調を基調とする「英雄」第 2 楽章の葬送行進曲に関しては、英雄は死と隣り合わせ、革命の象徴との時代観も浮かぶ。そうした流れとは別に、ベートーヴェンはパリへの演奏旅行を考えていたとの説もあり、実は結構な説得力がある。もし三重協奏曲(ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための協奏曲)と「英雄」をパリで再演していたら、パリでは複数のソリストによる協奏交響曲が人気だった。「英雄」第 3 楽章のホルン三重奏も晴れやかな場面にふさわしい。儀式性すら感じさせる。ベートーヴェン、パリを意識か。夢はふくらむばかりである。

1st Violin ○ 宮崎 博 伊部 祥子 小野 英駿 工藤 崇 坂本 奈津江 竹内 崇子 鶴森 まりな ヘンリ・タタル 三塚 美秋 柳澤 直美	Viola ◎ 井野邊 大輔 青木 恵 寺澤 正晴 百々 暁子 長谷川 基 御供 和江	Flute ○ 戸田 敦 芦澤 暁男	Guest Principal Horn ◇ 山岸 博	Chief Inspector 美濃部 敦
2nd Violin ○ 川又 明日香 □ 小川 有紀子 岡村 映武 小池 まどか 佐々木 亜紀子 近田 朋之 長谷川 康 村上 達俊 三塚 美秋 山本 高史	Cello ◎ 三宅 進 ○ 吉岡 知広 金子 遥亮 北村 健 木村 藍圭 中村 隆人 八島 珠子	Flute & Piccolo 宮崎 英美	Horn 大野 晃平 須田 一之 中野 涼香 中村 隆司	Inspector 西村 実悠 名和 俊 前田 秀明
	Double Bass ◎ 助川 龍 □ 名和 俊 黒江 浩幸 高橋 慧希 田中 洸太郎	Oboe ○ 西沢 澄博 高橋 鐘汰	Trumpet ○ 浦田 誠真 戸田 博美	Chief Librarian 水野 広明
		Oboe & English Horn 木立 至	Trombone ○ 紺野 駿人 岩倉 宗二郎	Chief Stage Manager 大久保 斉象
		Clarinet ○ ダビット・ヤジンスキー 下路 詞子 鈴木 雄大	Bass Trombone 山田 守	Stage Manager 川村 亮太
		Bassoon ○ 西口 真央 入交 滋 水野 一英	Timpani ○ 竹内 将也	◎印 ソロ首席 ○印 首席 ◇印 客演首席 □印 副首席
			Percussion 佐々木 祥 前田 秀明	

本日の客演奏者

1st Violin 平松 典子	Viola 武井 麻里子 中村 里子	Cello 猪又 麻衣子 田澤 緑 福原 明音	Double Bass 安田 廉	Clarinet 野辺 かれん
2nd Violin 須藤 遥 山澤 めぐみ				Trumpet 関根 美羽

理事長 増子 次郎	理事 伊藤 幸雄 鹿又 久孝 亀井 淳一 小林 徳光 佐々木 裕司 佐藤 淳一 澁谷 由美子 須佐 尚康 藤本 章 松良 昭広 村井 泰介	評議員 浅野 秀一 新本 起也 飯村 尚登 石川 佳洋 一力 敦彦 伊藤 英一 岩城 利宏 浦沢 みよこ 熊谷 壽道 佐藤 英夫 鈴木 繁雄 高橋 知子 田中 正人 平賀 ノブ 藤崎 正裕 水口 裕子	事務局長 今井 吏	事業部 部長 我妻 雅崇 主査 水野 広明 主査 関野 寛 主査 大久保 斉象 主任 美濃部 敦 主任 後藤 美幸 伊東 広大 鈴木 拓海 西村 実悠 庭野 暁子 氏家 一葉 佐々木 はづき 川村 亮太 鎌田 美冴
副理事長 片岡 良和 大山 健太郎 藤崎 三郎助 氏家 照彦			総務部 部長 中澤 寿幸 次長 高橋 朋生 太田 祥恵 小林 千明 齋藤 静香	
専務理事 伊藤 勝也				
常務理事 今井 吏 中澤 寿幸 我妻 雅崇	監事 鈴木 友隆 八木 洵			

2026年4月15日発行 非売品 公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-3-9 TEL: 022-225-3934 E-mail: contact@sendaiphil.jp URL: https://www.sendaiphil.jp/
発行人: 伊藤 勝也 デザイン: デザインユニット inemuri